大和文庫

四十六編

應賀茂
國貞画

錦産堂板

へ13
3836
20

万亭應賀著
作者
國安
上

へ13
3836
20

やまと文庫

四十五編

上の巻

申の春

萬亭應賀著

歌川国貞画

釋迦八相倭文庫四拾五編叙

夫摩訶鄧伽の女は由來い諸經ゐ在ども異訳ありて已に摩訶鄧の女少くのそのくの其名と云されど茲ゐ一ノ鄧蛮の名と設ぬ童女達ゐ讀覺安かくもそんゐ爲也猶提婆の傳等い十誦律。增一阿含經。大涅槃經。毘奈耶破僧叉。大方便報恩經。五分律。大智度論。摩訶摩耶經。出曜經。法苑外に出たる比白異譚あれど經々は要文ばかり摘で予手ゐ入盛素人の白胡麻をふりかけく呉音もちくぬ語任の護鷺穢いおくふひ草はもくく物ともゝあくん叙

安政七稔

庚申初春發

萬亭應賀誌

倭文庫四拾五

毘奈耶破僧事第十八ゐ云

提婆達多語未生怨王曰我以教汝
今得王位今須建立令我作佛王語
曰佛身有金色汝身無金色何
令作佛耶復白王言我身作
金色斯亦可得即召金匠
言令我身作金色金匠
曰若能
忍
痛
即可
得作
即以熱油△
塗身
△
若金薄身
甚受辛苦
云々

摩鄧女經云
時阿難持鉢
乞食已阿難道
水邊行見一女人
在
水
辺
擔
水上云云

摩鄧伽の嬢ゝ鄧蜜
阿難を懸想を

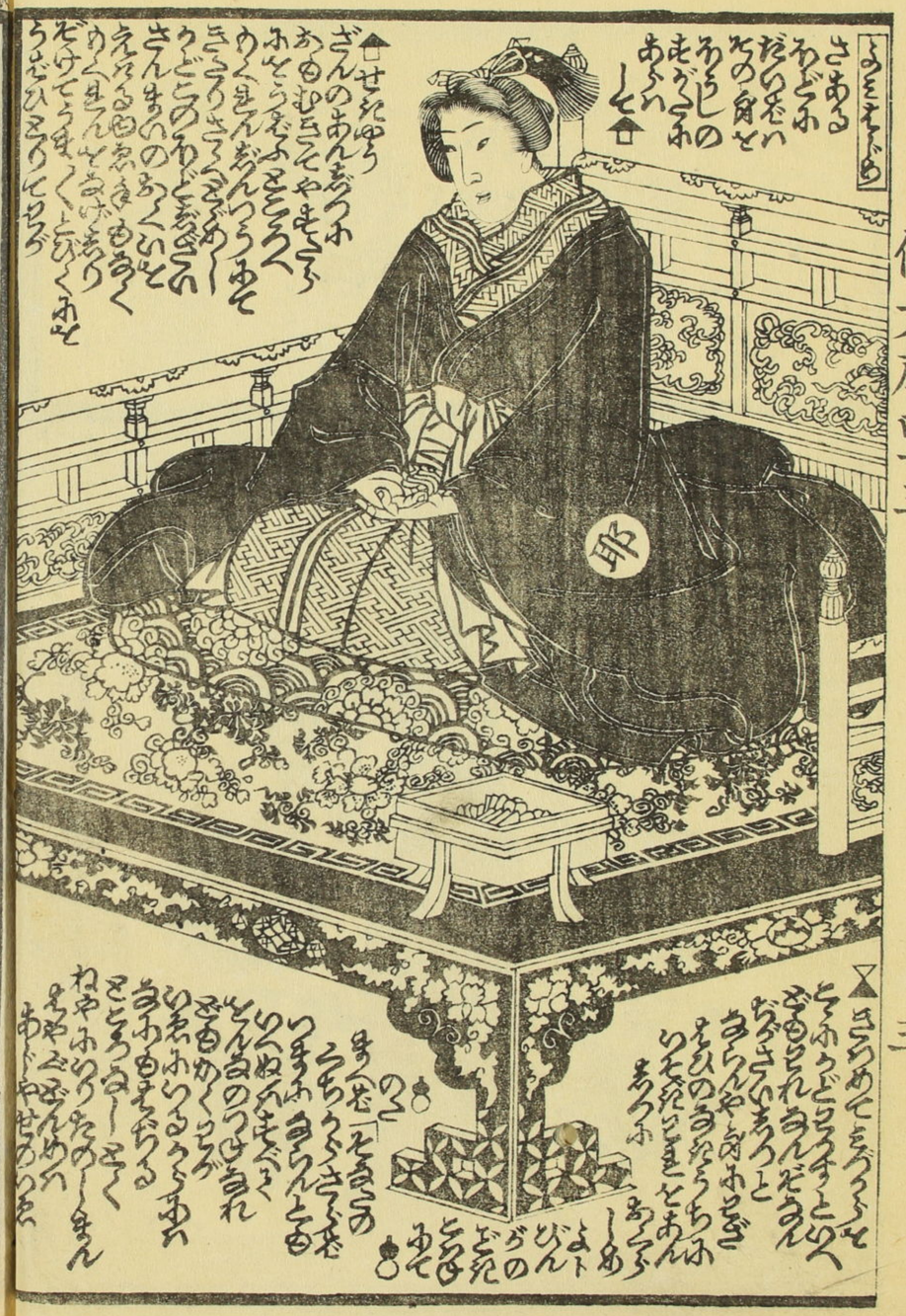
佛足縮圖

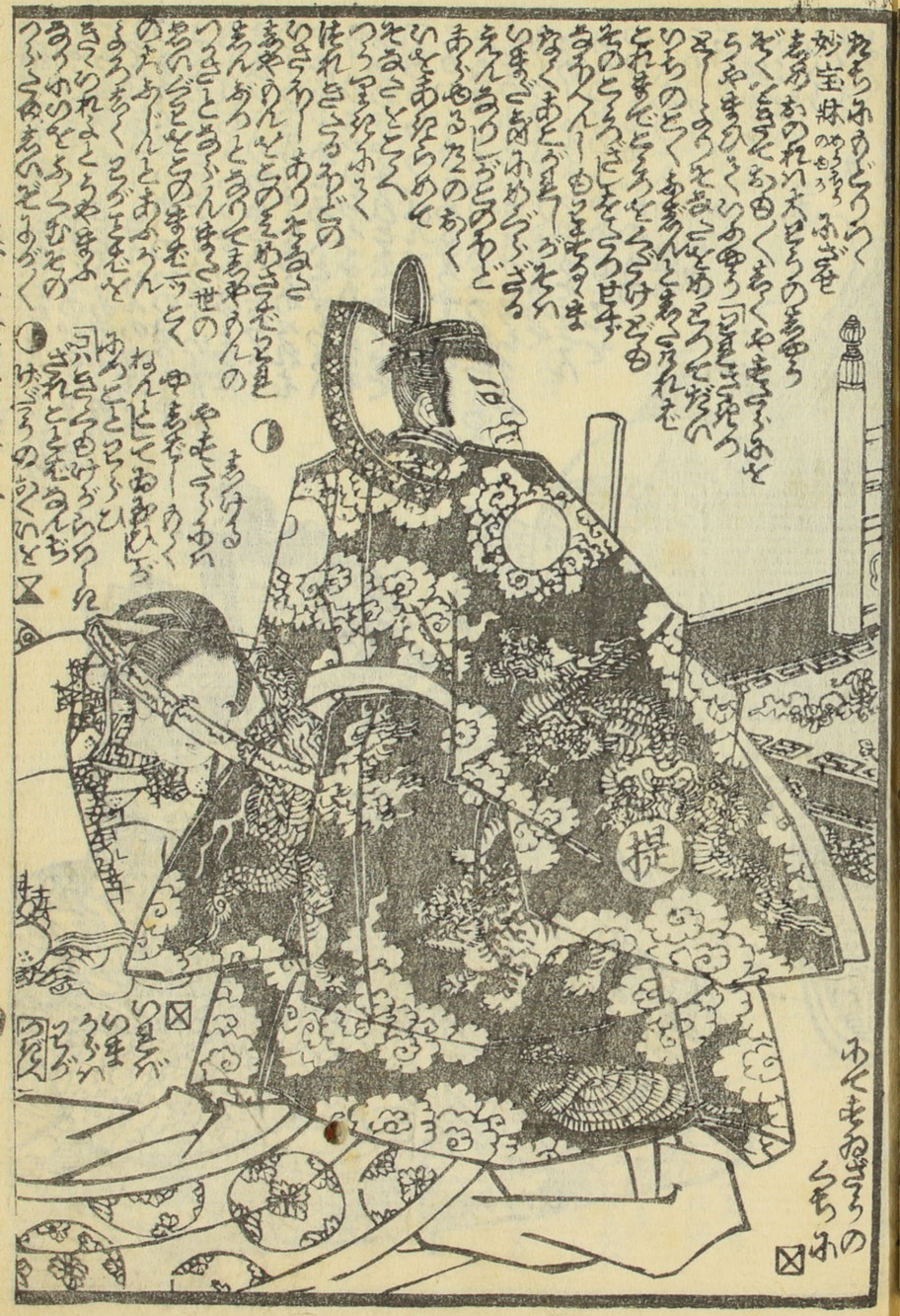
千輻輪相

魚鱗相

金剛杵相

梵王頂相


耶

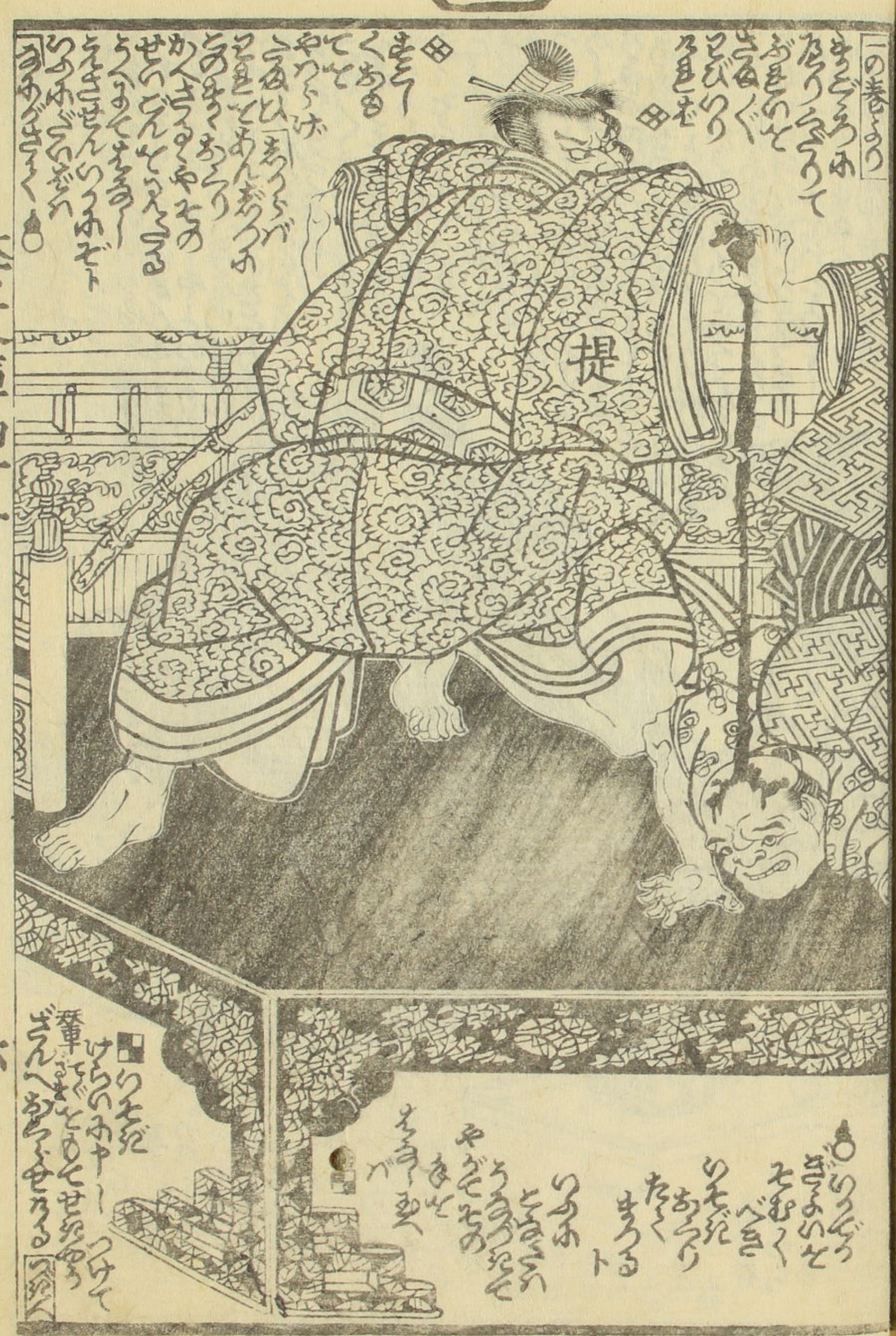

提

○ちっちゃいそうそんなぞもそのあのどとくまがけたりしあり さをを
のけたりしあふもやのうんや
えっちょしあふもやのうんや
これとろさんとまるるろがふ
ありやとふとふろづまるる
あいてあやとふろづまるる
それもあり つくふだいのぐろ
あんぢ六通ふくとえるると
あふをそのとのろひあそえる
まてえそとトいひさまひと
まめーめくまろぐねめ
かくまるつくろろふ
ふーこれぐぐぐー
だいいぞぐ

かひるのうしぐけて五指により

せんろそそふいのまふりしものたくぐくいのちのうきりとありふめふより

二のうらえ



一の巻より

きどろうめ
ろりろぐりて
ぶきのと
さるく
とびいり
るまを

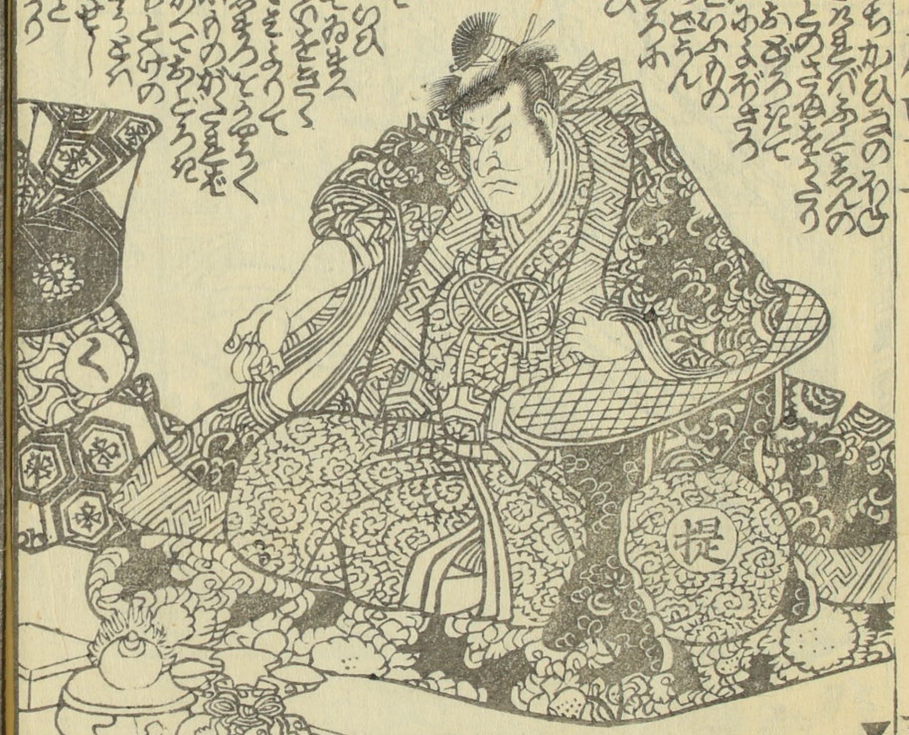
愚春蟲
ぐぐんの
うぐりり
かりそめ
ふまる○

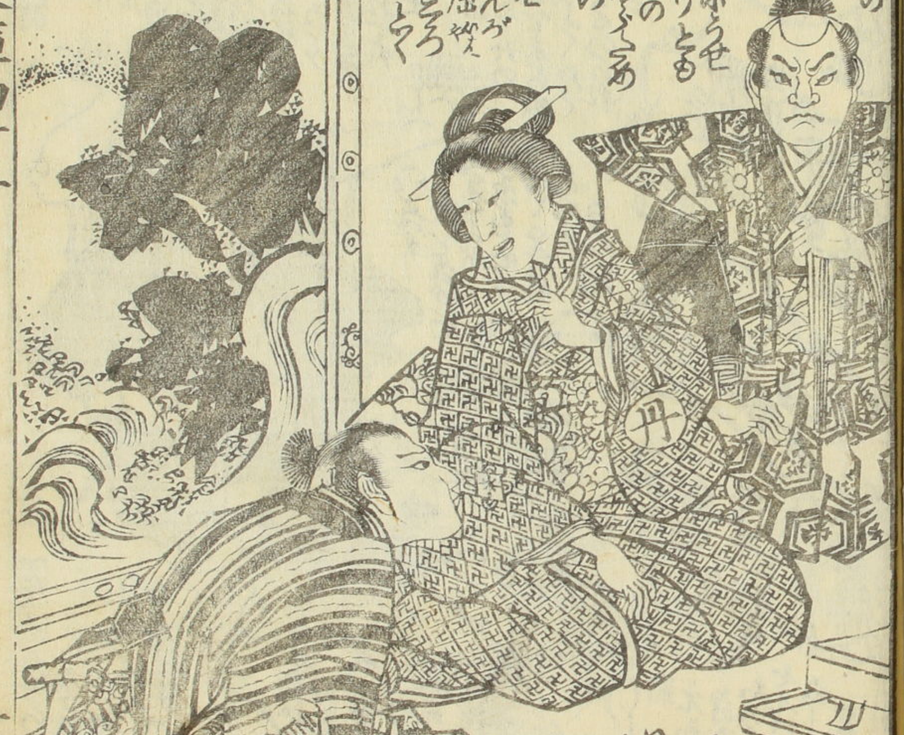
きてくある
てを
やりふげ
こるひ
とあんぢろめ
とあまるまるり
かくさるやそのの
せのぐんとりえるる
うおてまるー
えさせんいつめぞト
いつめぐのぐんく○

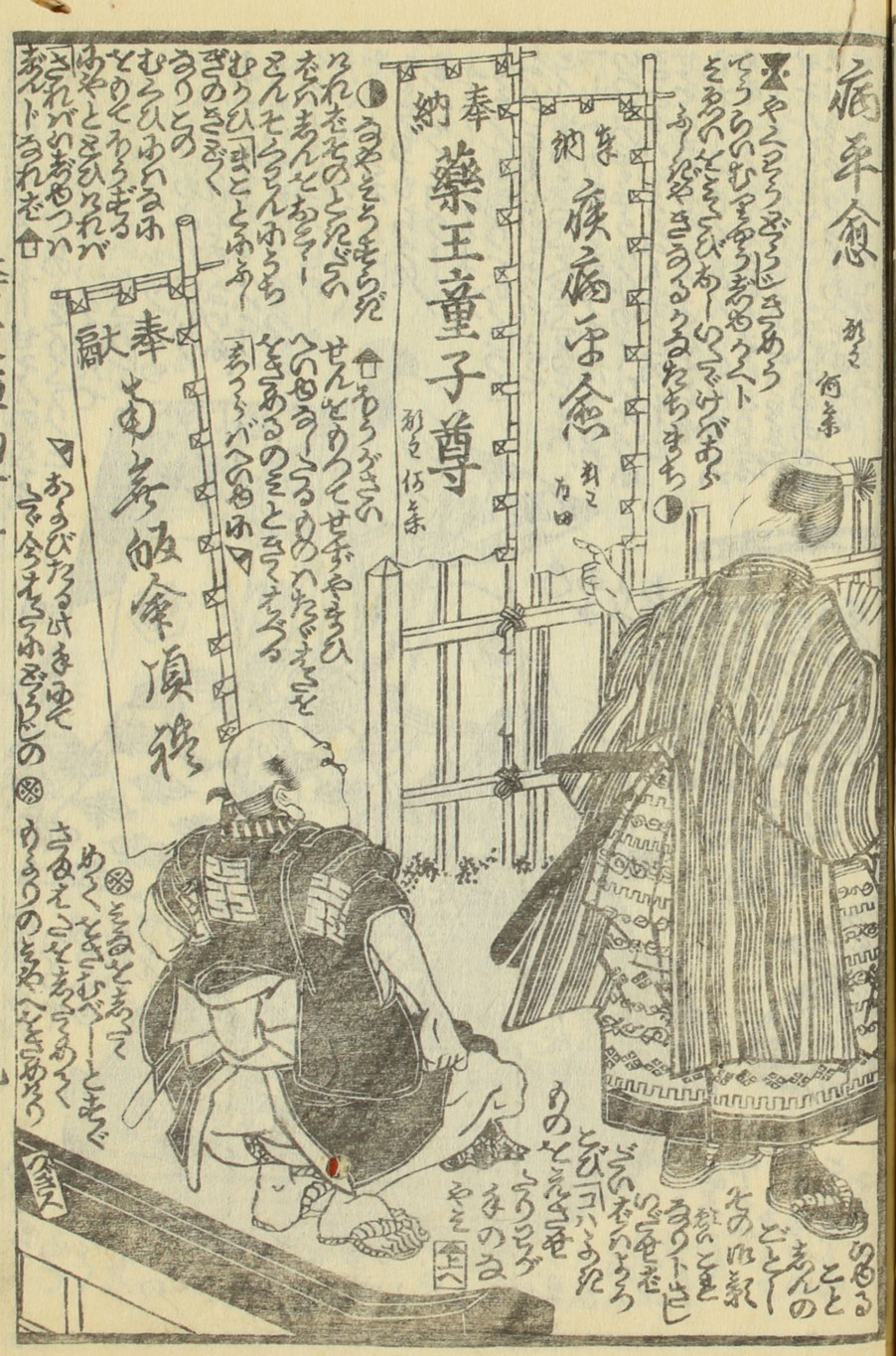
いそぐ
けちのふやーー
奪ぐまとりとせぐろ
ぐんへあるーせるる

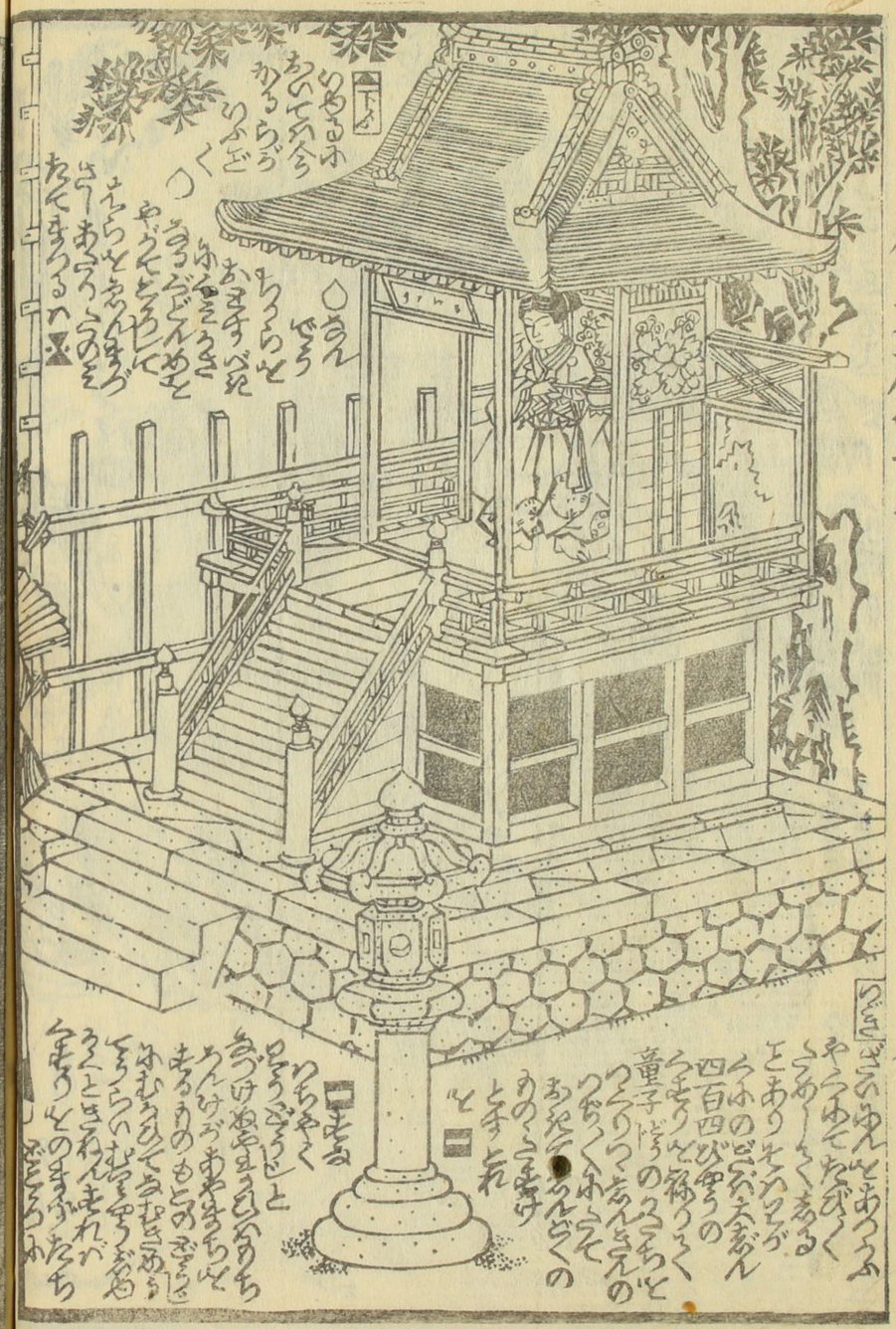
いのぐろ
ぎよふのそ
そむくべき
いそぐ
ありり
たくまろる
ト

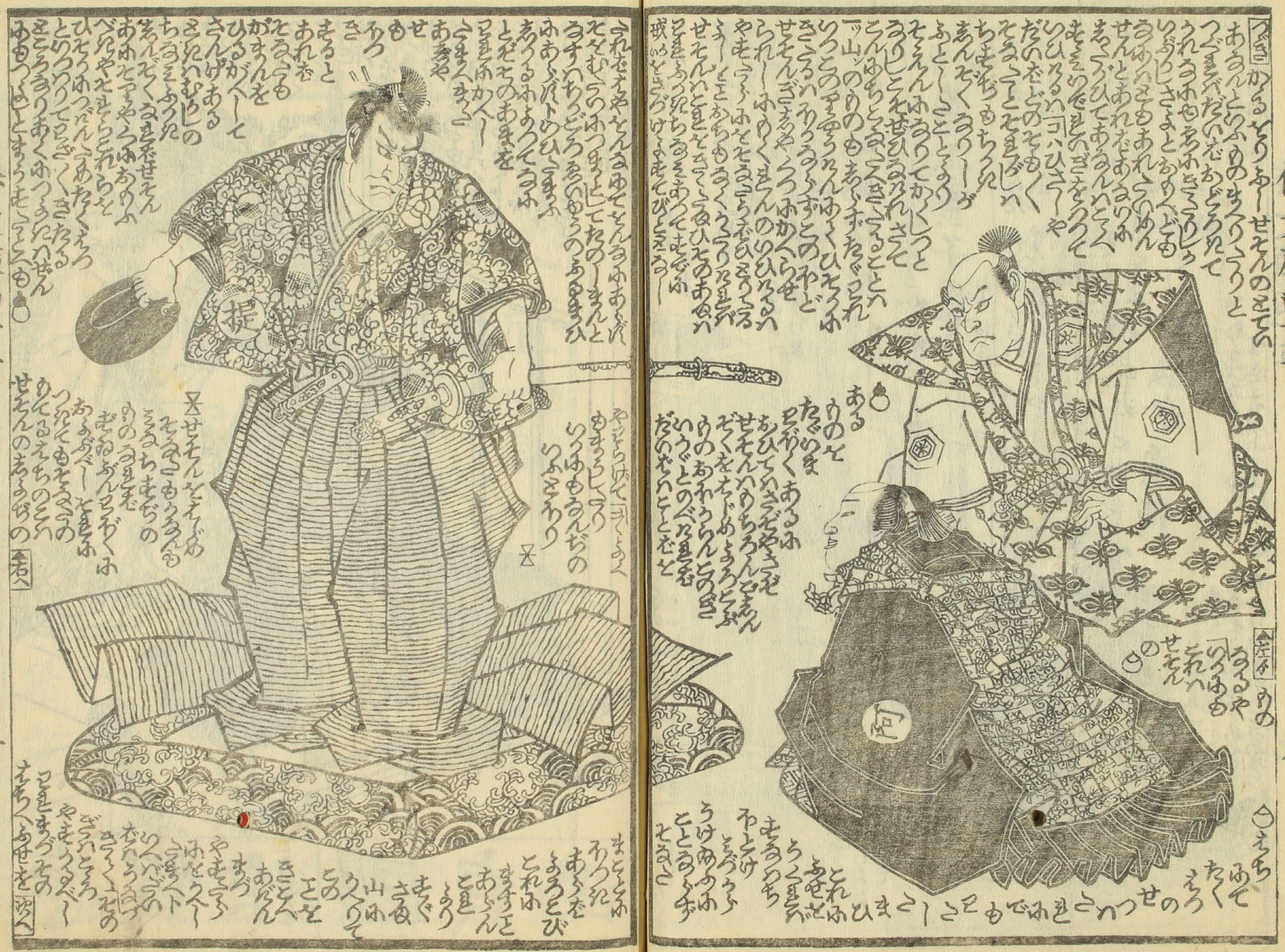
いるめ
とまるふ
ろるるふそ
やぐそその
をを
まるーまく
ば



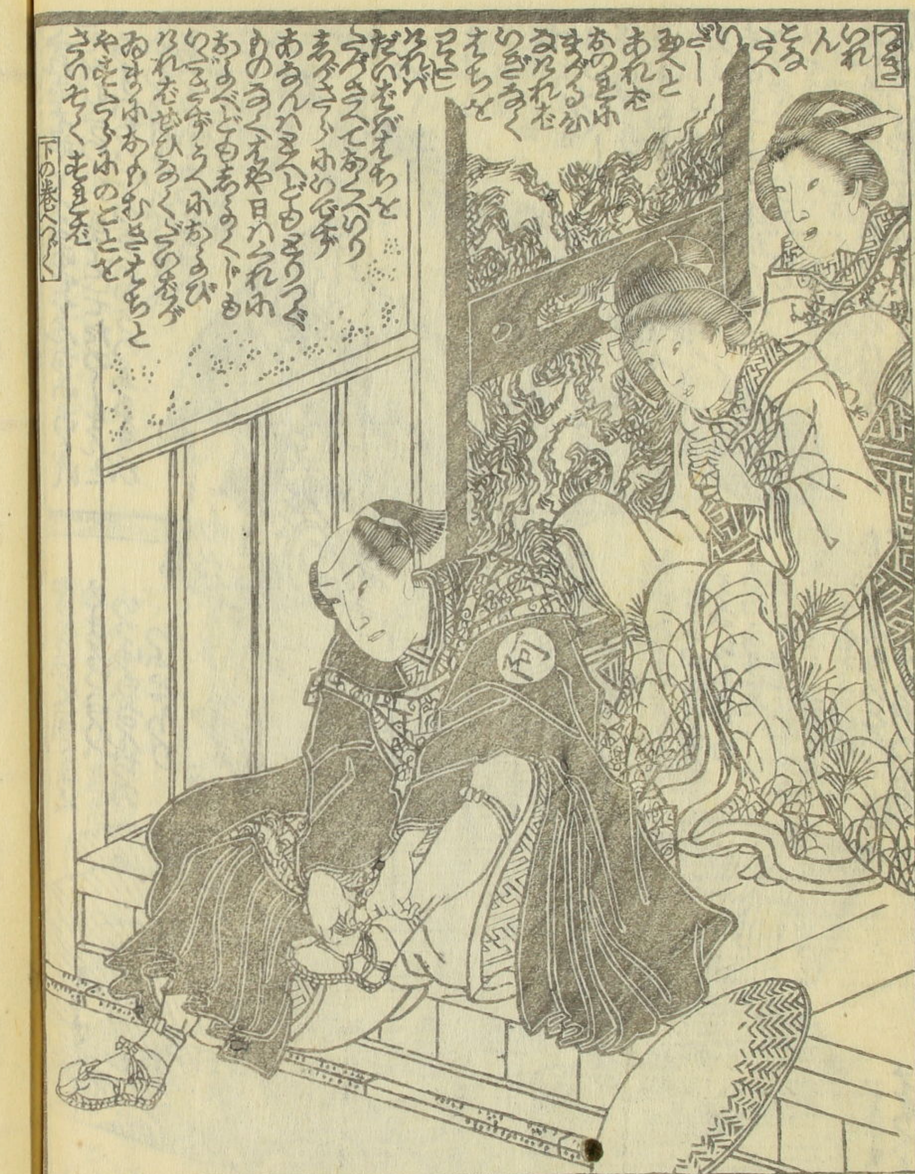



病平愈
奉納 藥王童子尊
奉納 疾病平愈
奉獻 南無飯倉頂稲荷





つゞき



應賀作　國貞画

倭文庫　四十三編　四十四編　四十五編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　八編揃　為永春水作　同

昔語小栗實説　二編　三編　松亭金水作　同画

花山吹百人女郎　初編　二編　柳亭種彦作　同画

浅草みやげ　五編揃十返舎一九作　同

常磐津懐中本　初編二編　三編四編　小本　彩色あり　極上彩色

畳繪艸紙本類　人形町　上州屋重藏版

倭文庫四拾五編

歌川國貞画

錦重堂版

下

申分表

偽物語

四十五篇

下之巻

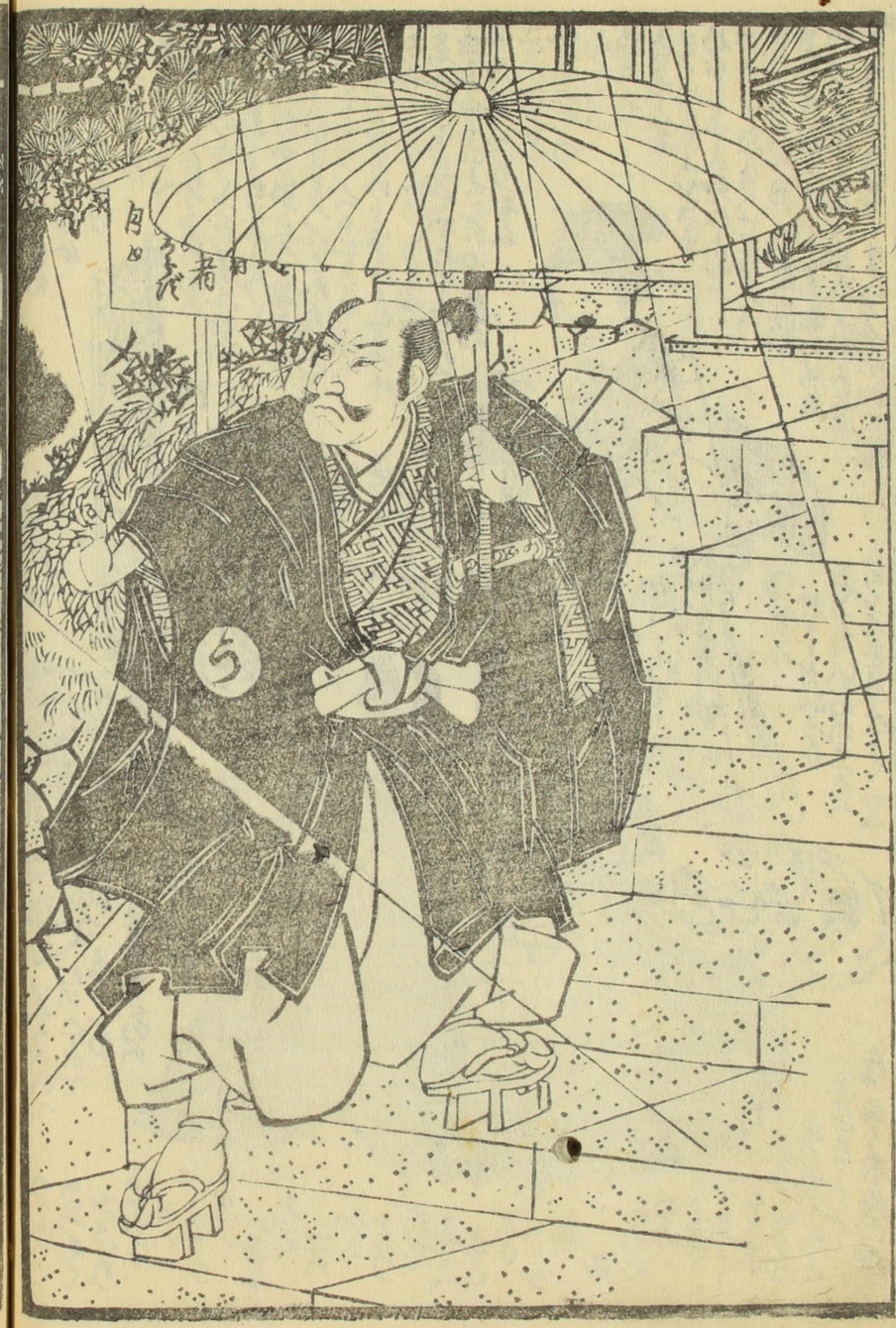
柳亭賀作

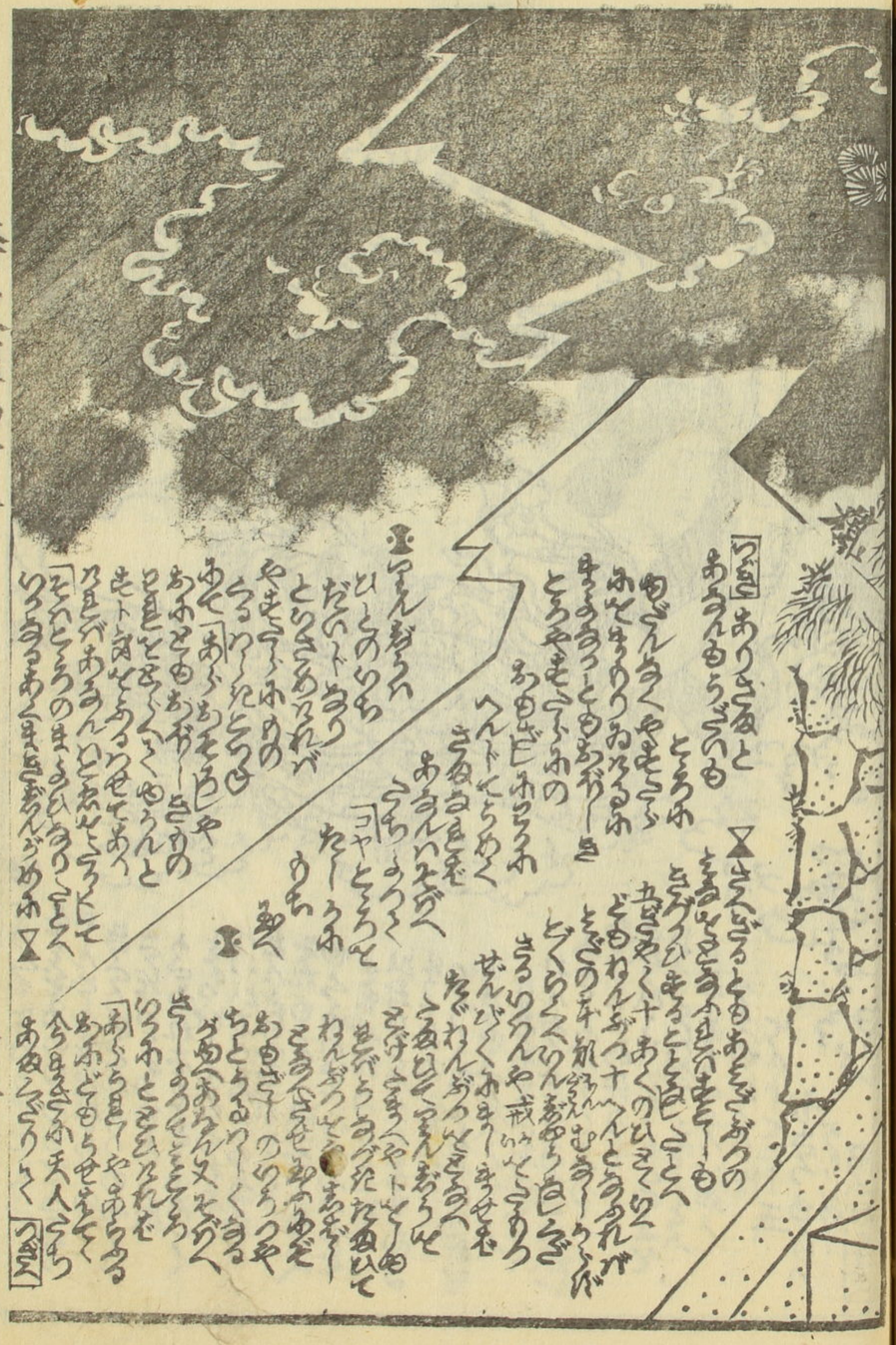
国貞画

錦雲堂 寿梅

金

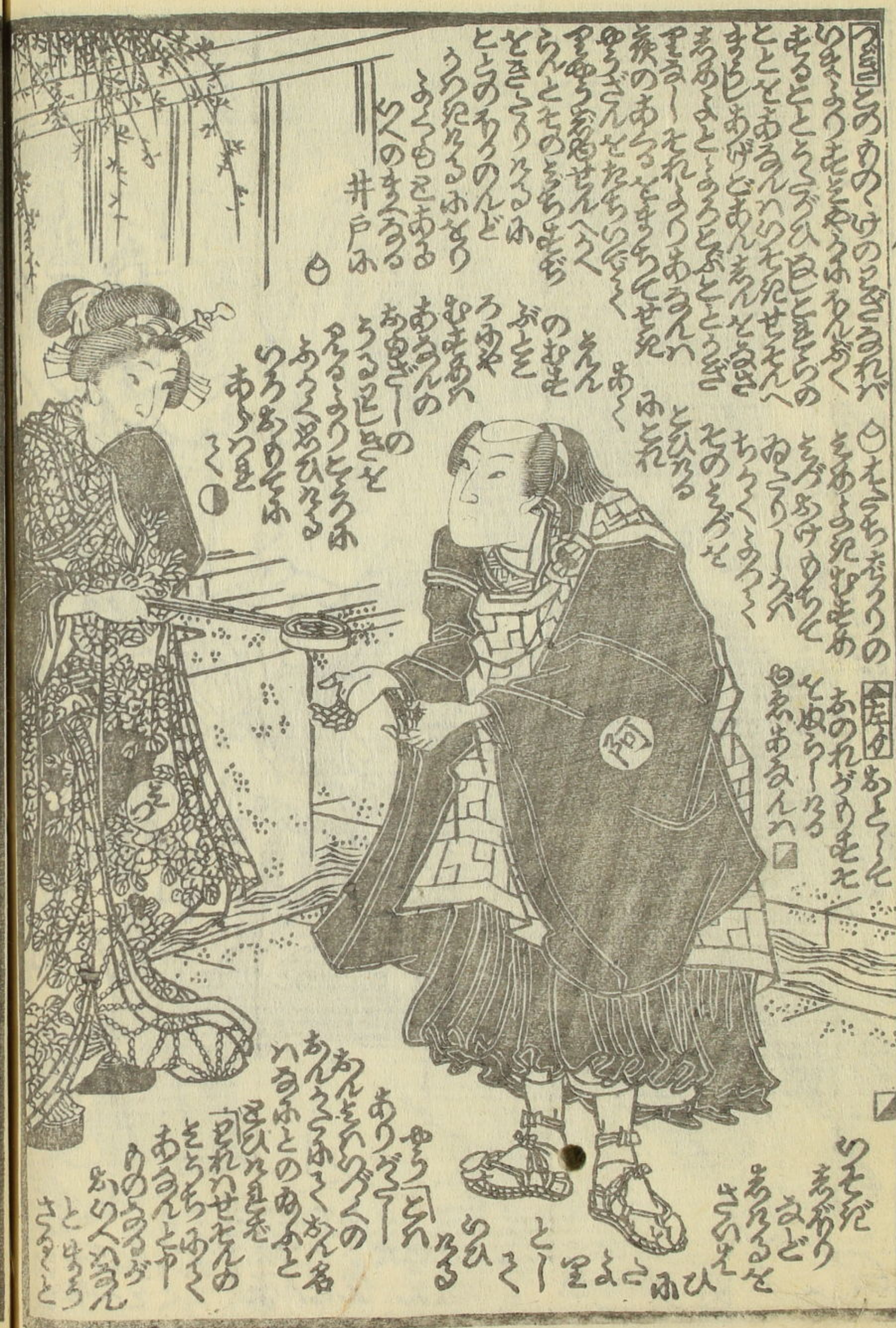
提

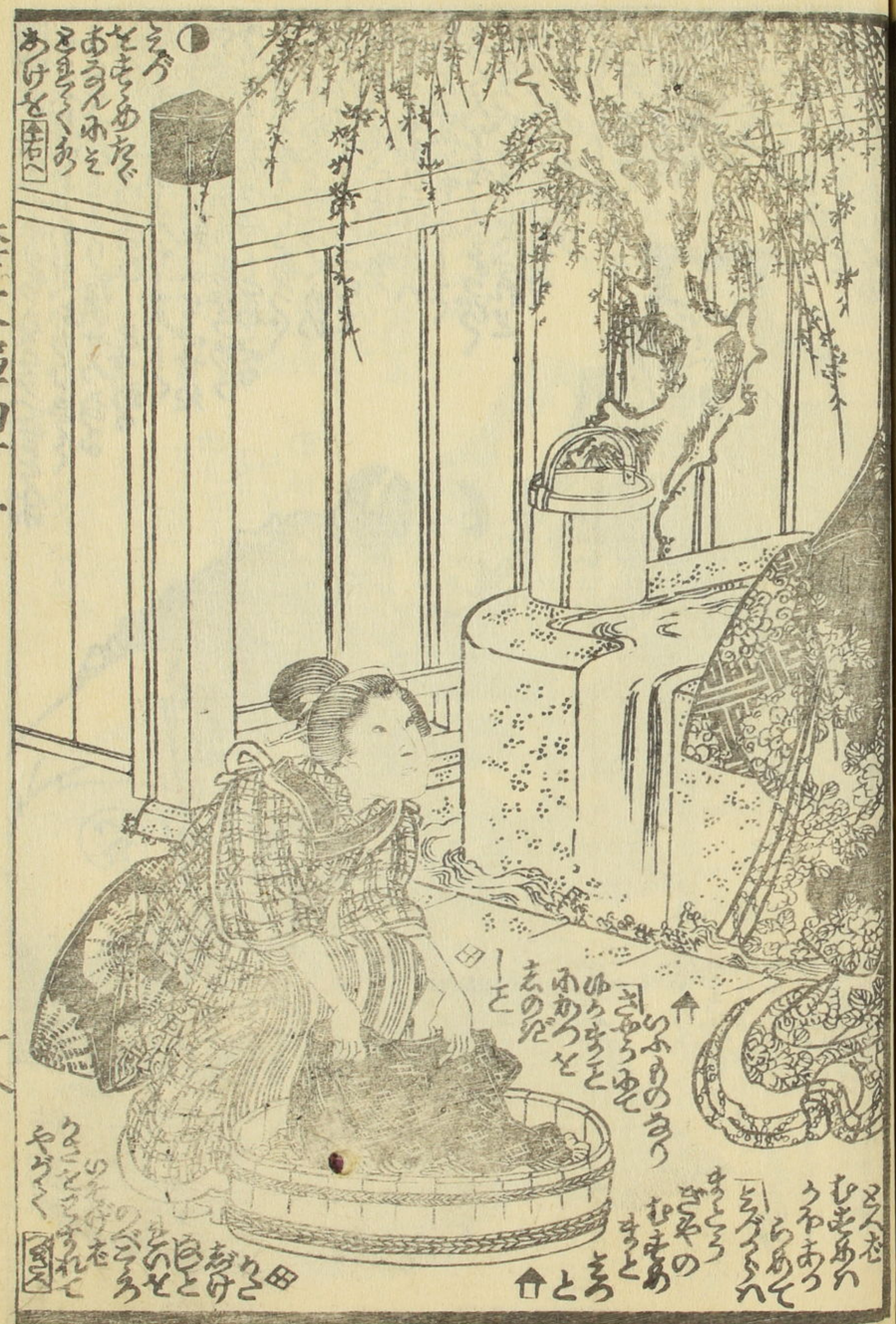




阿
那

妙





つぎ あるんいさうさうこのいろをあつつ〜そいそんふらぐることあるせものどとくくるまを戒をまもまぶいつゆせんつまをうつべえ身にあぐびるゆとぞろくくるさしめ西へとありるれがそもせびるくそのことをまとところふくうりれをるゆとぞりんとさぢてのぐーゆるさまをがつひゆへあつとてありもせめふぐびとぐやゆきこらまーいるろえるのあるるうんとるろこぶうりゆたてもあがれているるもをまこるとゆるのやをゆをちをこするまそりんとをぢりどさぐることそうるを

万亭應賀作
歌川國貞画

備書
交來

傾文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画	
春の手遊 将棋双六	同作 歌川貞房画	
男女振合 役替双六	極ありもうき 同作 一陽齋豊國画	
武家奉公出世双六	同作 同画	
奥奉公出世双六	同作 同画	
子宝延命袋	紅摺全一冊 同作 歌川芳玉画	
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續	
大寶御江戸圖	極上摺奉書六枚半續	

万亭應賀作
仆題曲亭國安
上

釋迦八相倭文庫四拾六編序

大佛頂首楞嚴經ふい阿難因乞食次經歴止婬室遭摩
鄧伽以沙毘羅呪攝入婬席如來頂光宣説神呪文殊
師利將呪往護ト云云此外小乘部の異釈多ク故茲ハい
摩鄧女經を以て解畧し下巻ふる佛説光明童子
因縁經一部四巻乃説れたる大善權經又雜寶藏經
の説等を混雑し如來乃威德を假名章に輝く
法燈ゆなしてゆいきこの愚蒙ハ暗純を明ふ
おさんこゆをたりふ

萬延二年
辛酉初春

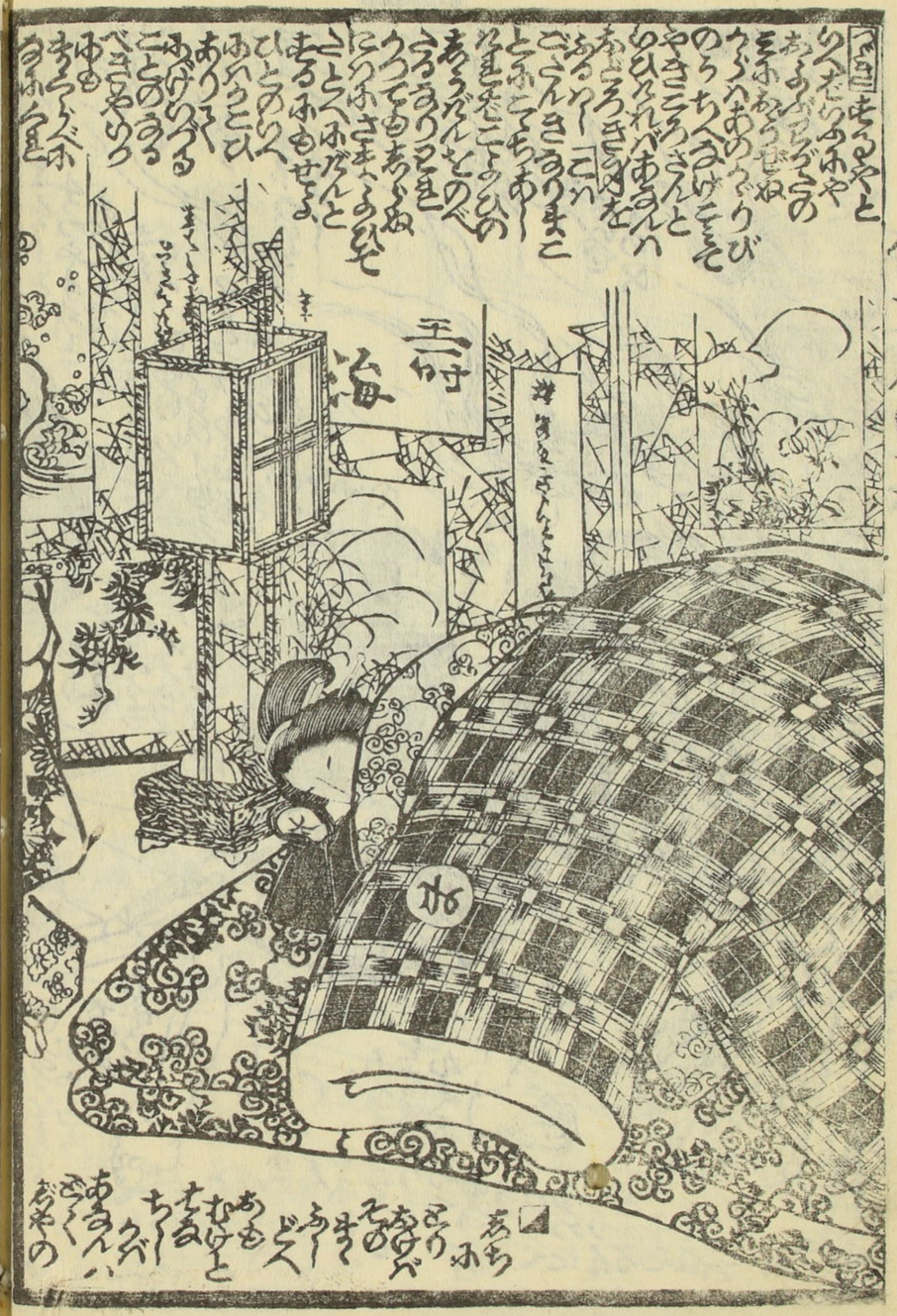
万亭應賀誌

火光明童子誕生
本説ハ外道
尼乾陀と
茲ハ提婆と
摯擬也
光明童子因縁經
一部四巻中畧
有長者名曰善賢其妻
懐妊問世尊佛曰汝妻
胎中決定是男子於人中
受天勝福其後外道
以毒藥害母子遂
世尊
耆婆
びんばさらおう王

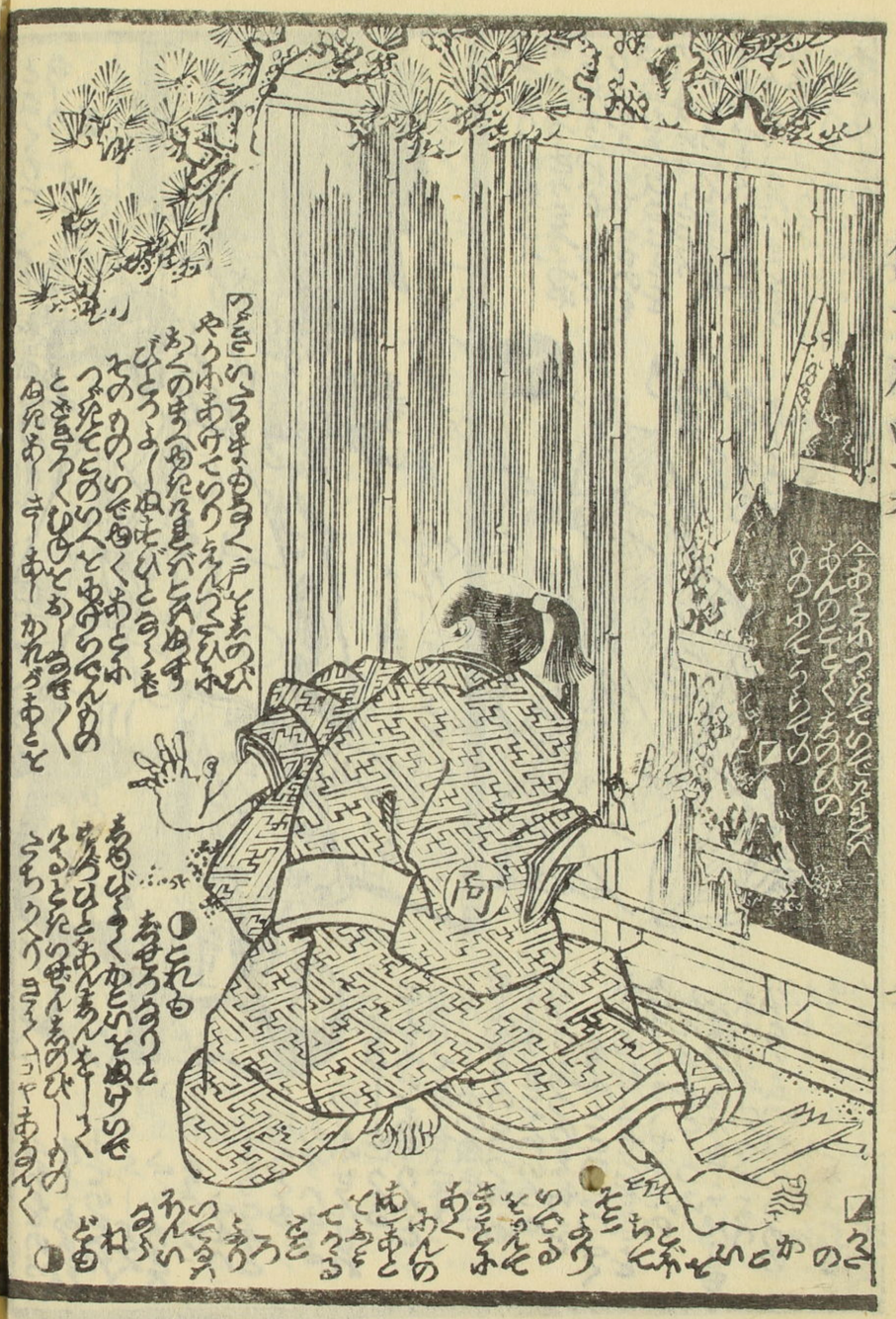
送尸陀林世尊命耆婆
從火中得故火光明亦
樹提童子共云トあり
重勝王菩薩爲阿難
現千神足問其疑論
大善權經
上巻云
見有問十
名重勝王
在他室
坐與
女人
同
林阿難云
犯穢時重
勝王即自踊身
住於空中去地
四丈九尺ト云云
阿難

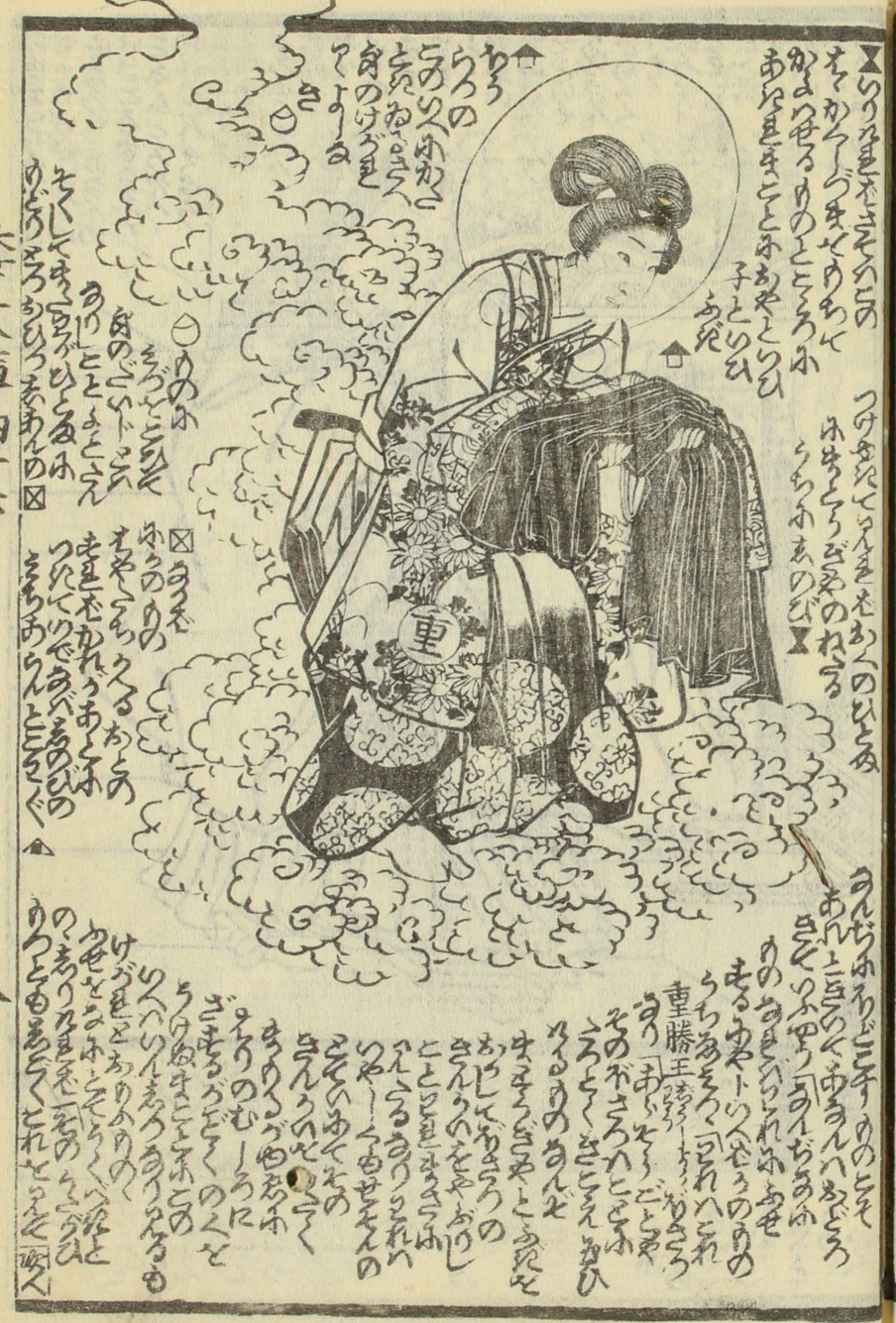
戒因縁經第四曰 文畧

舍利弗大目捷蓮從巷闇
崛山入四維閲城八方衛道逢
暴雨入石室避雨有
牧牛女人入先避
雨臥失精舍
利弗等尋出
去見是提婆
弟子四住
迦離仍懐
惡心惡瘡
生遂墮
地獄


三寸
海
水

重





倭文庫 四十三編 四十七編 力亭應賀作 一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋 編輯為永春水作 同画

昔語小栗實説 二編松亭金水作 二編同画

花山吹百人女郎 初編柳亭種彦作 二編同画

浅草みやげ 五編揃十返舎一九作 同画

常磐津懐中本 初編二編 小年寄付あり 三編四編 極上彫あり

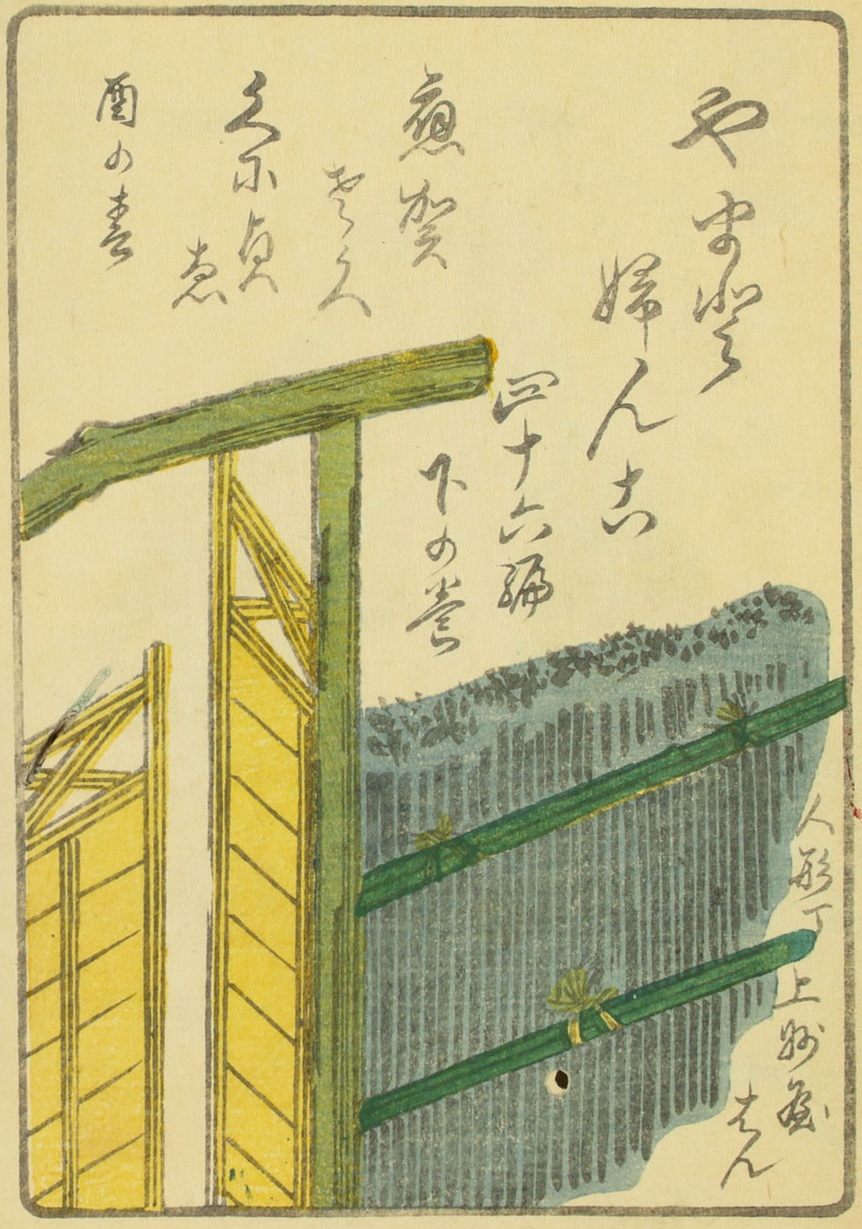
金里繪艸紙本類 人形艸紙 上州屋重藏版

倭文庫四拾六編

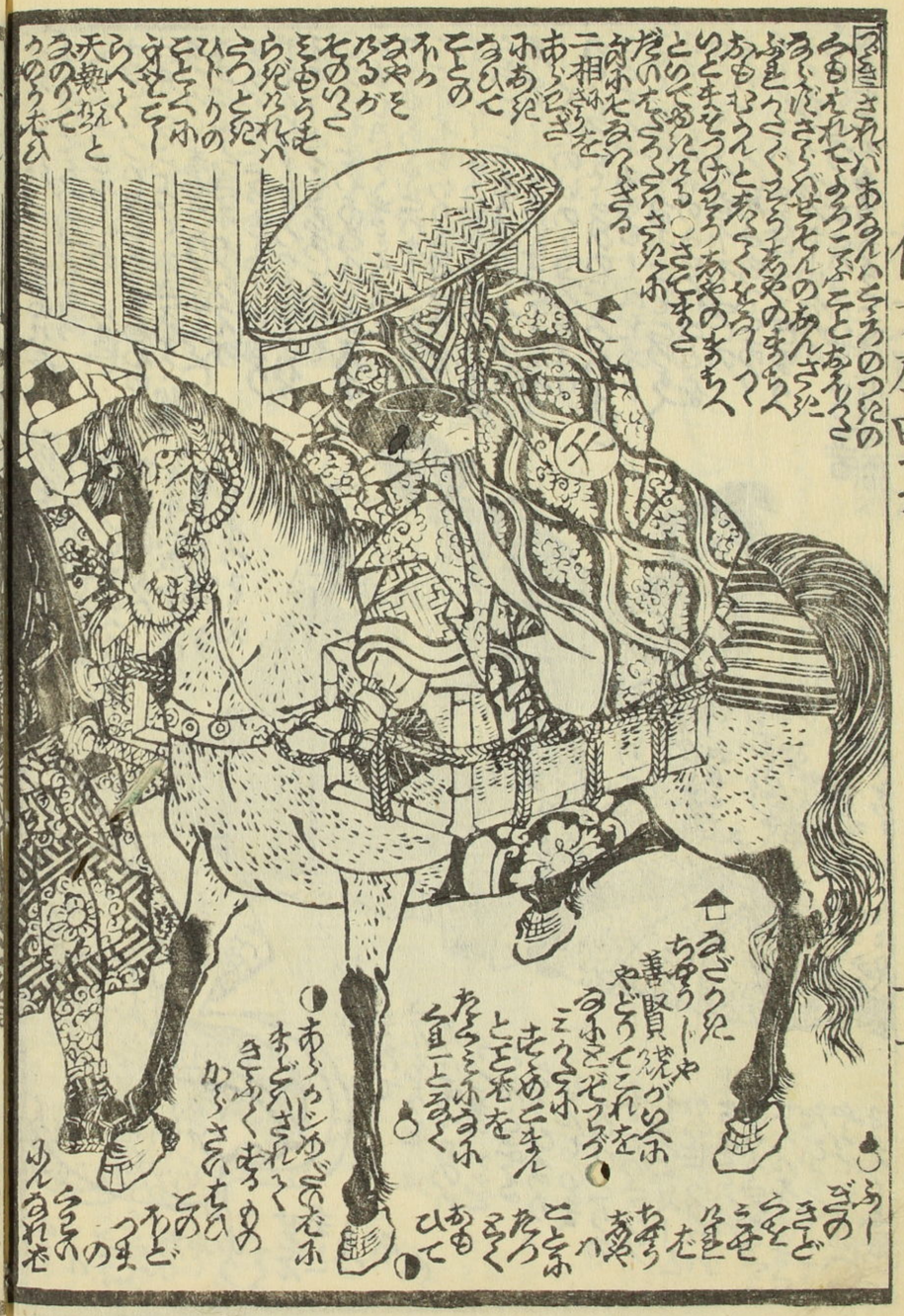
歌川國貞画

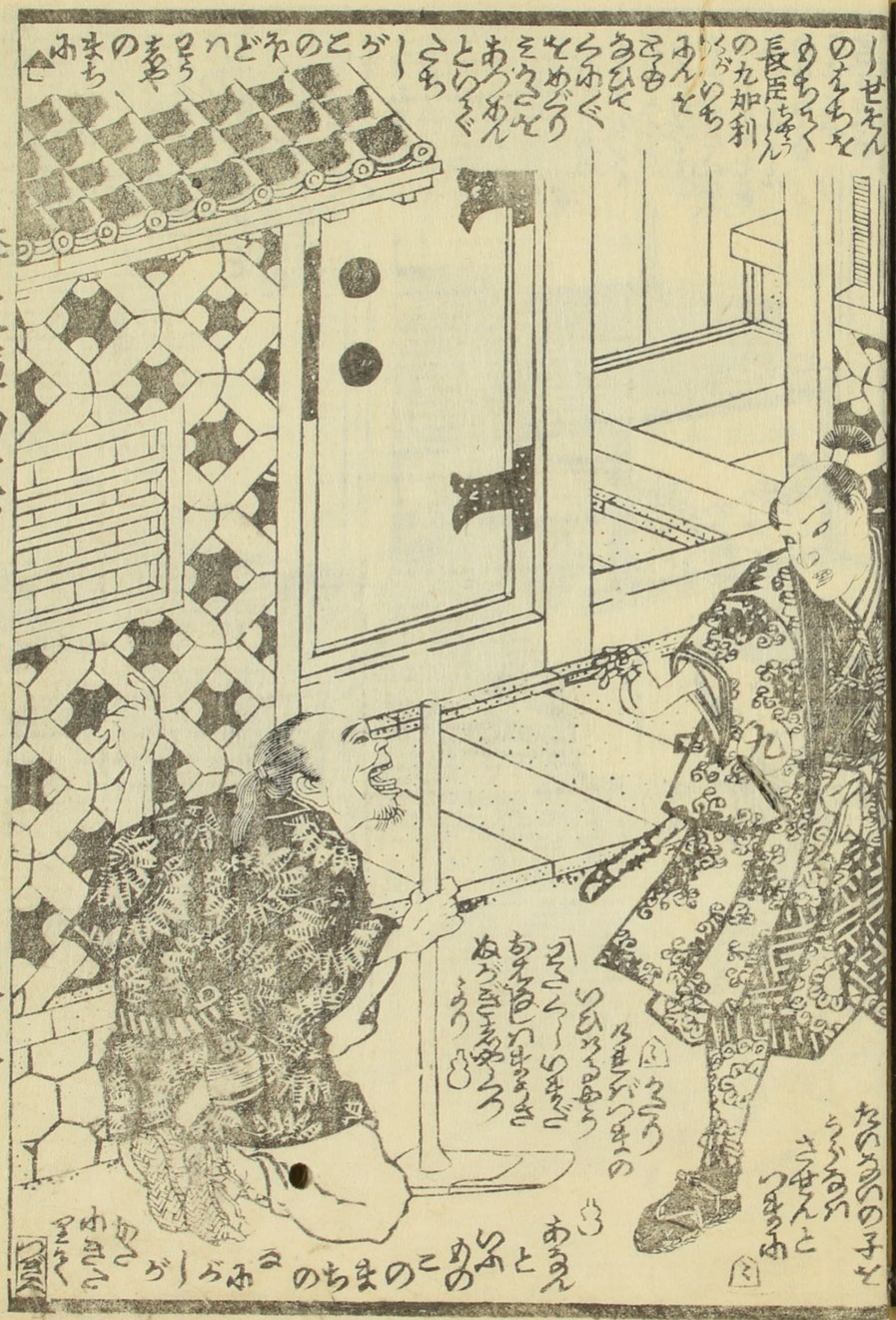
下

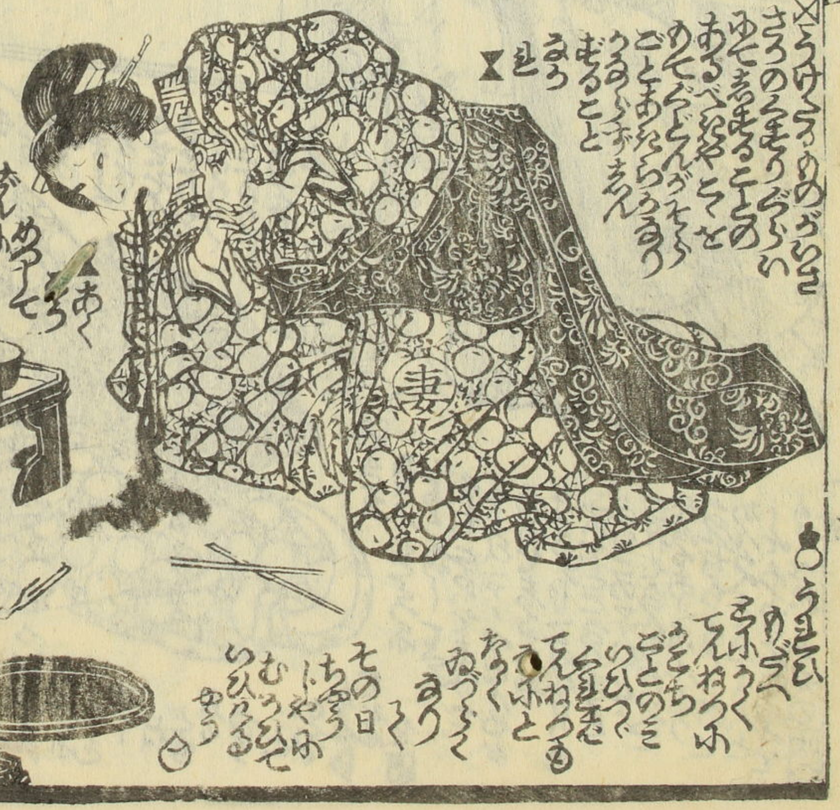
金上州屋


四十六弾
下の巻
人形上物
きん

三
上の巻より
三

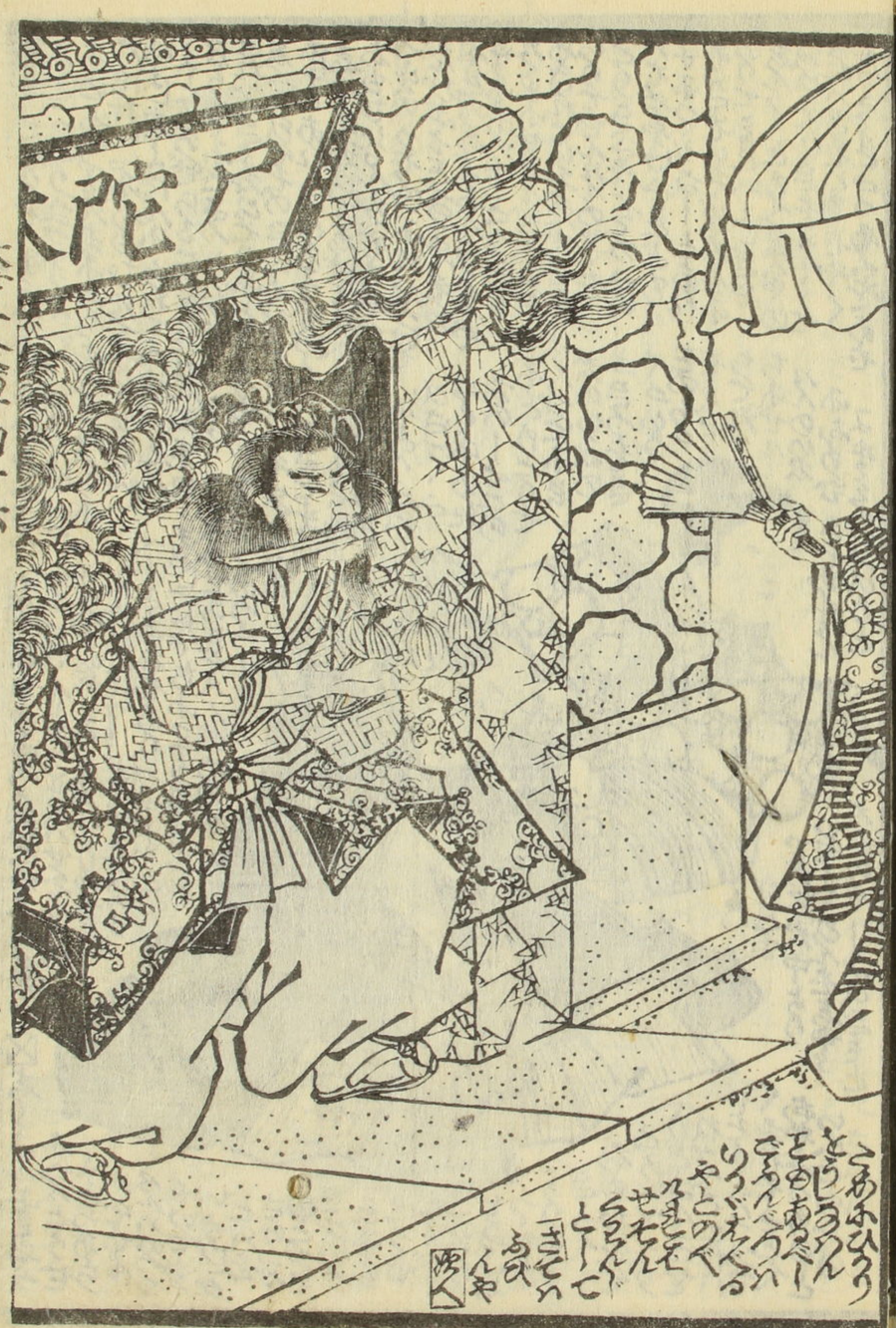





妻

新佛教
五舎堂

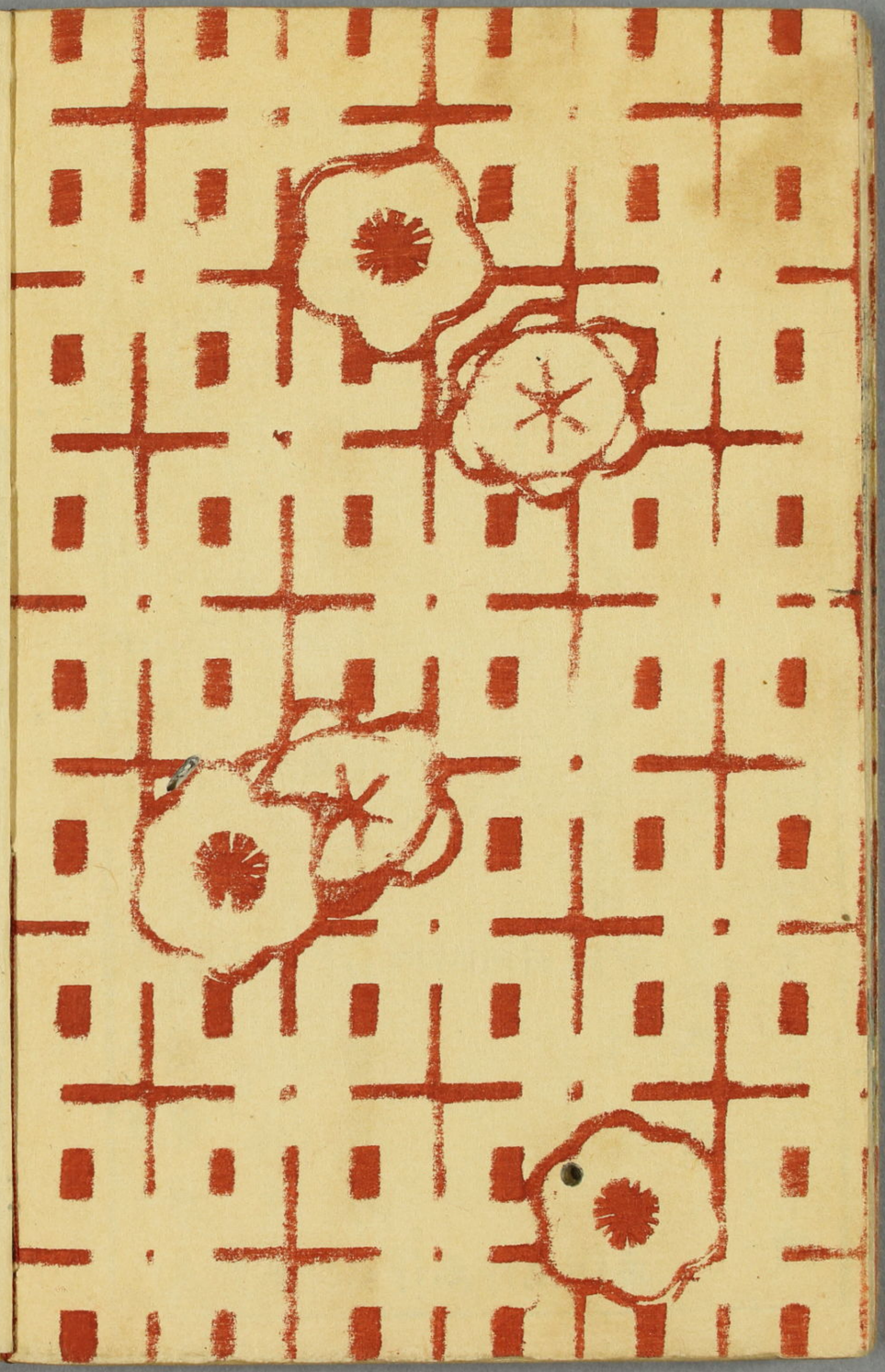
説法 天熱道師


戸陀

作者曰
童子因縁經ハ此条王舎城
伽蘭陀精舎ハ世尊在しし
のときなれども未此精舎の訳と説ざれ
世尊の御在所の名と云バあらんぶの
来由ハ末の巻ハ
くわしく述る

目
舌

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
春の手遊　将棋双六　同作　歌川貞房画
男女振合　役替双六　極かりしるき　同作　一陽齋豊國画
武家奉公出世双六　同作　同画
奥奉公出世双六　同作　同画
子宝延命袋　紅摺全一冊　同作　歌川芳玉画
重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續
大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續



諸子住國史畫上
倭文庫四十六物